

特集

育成型学生受け入れへの転換

現状、多くの大学は、受験生に自学について十分に理解させ、
適応に向けた準備をさせたうえで入学者として受け入れているとは言い難い。
そのことが、入学後の学力や意欲の面でさまざまな問題を生み、
大学がめざす人材育成の実現を困難にしているのではないだろうか。
大学全入時代においては、自学に合った資質を持つ受験生を見だし、
一人ひとりが必要とする情報を与えつつその資質や意欲を「伸ばしながら入れる」という
「育成型学生受け入れ」への転換を図るべきだ。
そうしてこそ、大学の教育プログラムが最大の成果を生み出すのではないだろうか。

現状分析

入学定員割れ～大学への適応度の低さ～卒業後の
母校への愛着の薄さ——と、大学の入り口から出口ま
で問題が連鎖している。

提案

学生募集の段階から人材育成を始め、大学に対する
理解と適応を促しながら「入学者」へと育て、導こう。

取り組み の実際

- 立命館大学・立命館アジア太平洋大学
在学生や卒業生との交流を通して受験生の「学ぶ意欲のスイッチ」
を入れる。
- 滋賀大学教育学部
教育の現場、教員の仕事と人生を紹介する学部案内で意志を貫ける
学生の確保を図る。
- 長崎大学
主体的な学びへの転換、大学生活への適応を図るという視点の新しい
入学前教育を導入。

オピニオン

目標準拠型入試の導入によって、高校段階での学習
経験を考慮した入学者の育成が可能に。